

Psychosis——「精神病」から「精神症」へ——

針間 博彦
(東京都立松沢病院)

日本精神神経学会精神科病名検討連絡会は ICD-11 の日本語病名・用語の検討を行うなかで、psychosis の日本語訳を「精神病」から「精神症」に変更する案を提出している。その背景と理由について解説する。

1. Psychosis の定義

英語の psychosis (独 Psychose, 仏 psychose) は、「心」(mind) を意味する psyche に、「病的状態」を意味する接尾辞-osis が付加されたものである。この語は歴史的にさまざまな意味で用いられてきたが、現在最も一般的な定義は「妄想、幻覚などを伴う状態」というものであり、これは 1980 年に発表された DSM-III 以降のものである。

DSM-III では、機能障害の重症度に基づいて psychosis と neurosis に二分するそれまでの分類方法が廃止され、neurosis は用語として消滅した。一方で psychosis についてはもっぱら psychotic という形容詞が、妄想、幻覚、統合不全 (disorganization) などの症状の存在を示す記述用語として用いられた。この用法は DSM-5 に至るまで不変であり、ICD においても ICD-10 で取り入れられ、ICD-11 に受け継がれている。

ICD-11 では、“schizophrenia or other primary psychotic disorders” を特徴づける「現実検討における有意な不全と行動上の変化」は、「持続性妄想、持続性幻覚、思考（発話）の統合不全、行動の著しい統合不全、させられ体験・被影響体験、感情鈍麻ないし平板な感情と意欲低下などの陰性症状、精神運動性の障害」として表れると規定されている。だがこれらの症状がすべて psychotic とみなされているのかは不明である。一方、secondary psychotic syndrome、気分症群、認知症では幻覚と妄想のみが、また物質使用症群では幻覚と妄想に加えて統合不全が、psychotic symptoms とみなされている。

2. 「精神病」の意味

日本語の「精神病」はもともと psychosis のみに対する訳語として用いられたわけではない。明治時代に西洋医学が輸入された際、この語はドイツ語の Irresein, Geisteskrankheit などに対する訳語としても用いられ、精神疾患一般を示していた（もともと、当時ドイツ語圏で Psychose はしばしば Geisteskrankheit の同義語として広義に用いられていた）。のちに psychosis と neurosis の二分法が定着する際、それらに対する「精神病」と「神経症」という訳語もまた定着した。こうした経緯から、「精神病」という日本語には、「精神疾患」一般を示しうること、また特定の症状の存在を示す psychosis の現在の用法を反映していないという問題がある。

3. 「精神病」から「精神症」へ

上記のように、第一に病的状態を示す-osis は医学一般ではたいい「症」と訳されること、第二に現在の psychosis は状態像であって疾患ないし疾患単位という意味での「病」を示さないことから、psychosis の日本語訳を「精神病」から「精神症」へ変更することが提案されている。この案によれば、派生語の日本語訳は以下のようになる。

psychotic : 「精神症性」

psychotic symptom : 「精神症症状」

psychotic syndrome : 「精神症症候群」

psychotic disorder : 「精神症」（「精神症（性）症」とすると「症」が重なるので psychosis と同じく「精神症」とする）

こうした変更は、単に特定の症状の存在を示すにすぎず、成因論的には異種混合である psychosis/psychotic が、「精神の病」と誤解され偏見とスティグマを生じうるという弊害を是正することが期待される。なお「精神症」という言葉は mental disorder や mental symptoms と混同されるおそれがあるため、十分な周知により理解を得る必要がある。